

# 暗殺者の瞬間

SISTA  
KONTRAKTET

Mahatma Gandhi Oct.2,1869-Jan.20,1948

そいつや  
首相を殺るしかなかった—

現実にあったスウェーデン首相暗殺事件、  
その複雑な背景を暴くサスペンス・アクション。

John F.Kennedy May.29,1917-Nov.22,1963

Martin Luther King Jan.15,1929-Apr.4,1968

Olof Palme Jan.30,1927-Feb.28,1986

ミカエル・パーシュブラント●ミカエル・キッチン●パニッラ・アウグスト●レイネ・ブリンホルム●ビヨーン・フローベリ  
製作：ペリエ・ハンソン●監督：シェル・スズヴァル●脚本：マッツ・アレーン、ペリエ・ハンソン、ヨーハン・ボガエウス  
撮影：シェル・ラーゲルース●美術：ビルギッタ・ブレンセン●メイク：アンナ・メレーナ・メリー●衣裳：カーリン・スズヴァル  
MIKAEL PERSSBRANDT MICHAEL KITCHEN PERNILLA AUGUST REINE BRYNOLFSSON BJÖRN FLOBERG SCREENPLAY: MATS AREHN DORJE HANSSON JOHAN BOGAEUS DIRECTOR: KJELL SUNDVALL  
PRODUCER: DORJE HANSSON CINEMATOGRAPHER: KJELL LAGERDÖS ART DIRECTOR: BIRGITTA BRENSÉN MAKE-UP: ANNA-LENA MELIN COSTUME DESIGN: KARIN SUNDVALL / FILM-LANCE INTERNATIONAL AB  
1998年度／スウェーデン映画 配給：アルシネテラン 発：デザイン：川上圭三



In a world full of suspects,  
how do you uncover the truth.



## 物語

朝もやのストックホルムに一人の中年男が降りた。表情は無表情、只のビジネスマンとも思えない。この男ジョン・ゲイルズと名乗ってはいるが、レイ・ランバートというイギリス生まれの国際殺し屋だった。アフリカの国の激しい政権争いの中でいくつか仕事をし、今度は、ある国際組織からこの国の首相オロフ・バルメを抹殺する依頼をうけたのだった。

入国者カードをめくっていたストックホルム市警のニーマン刑事はちょっと気がかりな男の写真を発見した。名前こそは違うが、この人物こそ、テロリストとして国際手配をうけている男じゃないのか。

それからニーマン刑事の昼夜を問わない尾行が始まった。大いなる暗殺の構図の匂いを嗅いだからである。

ところが、警察内部の上の方から、彼とパートナーの女性刑事の配置替えの命令がきた。犯罪の匂いが強すぎるくらいなのに、この転属命令はなにを意味するのか？

映画は疑念とサスペンスをはらんでいっきに緊張が高まっていく――。

Olof Palme  
Jan.30,1927-  
Feb.28,1986

## 解説

1986年2月28日夜、スウェーデンの首相、オロフ・バルメが雪の舗道を歩いている時に後ろから銃撃され命を落とした。享年59才だった。当時いっしょだった夫人は無事だった。直ちに捜査網が敷かれたが、その捜査は緩慢なものだった。検問もなくて、非常警戒もせず、これではみすみす犯人を逃亡させようとしているのではないか、と言われたくらいである。誰が、なんのために？当然議論は百出したが、わかっているのは、バルメその人は平和主義者で、西側の核政策に反対して、なおかつ世界各国の人権問題にも発言をよくし、南アフリカのアパルトヘイトにも反対していたということである。

犯人はいったん、らしき人物が検挙されるとすぐに釈放されたりして、今日に至るもまだ解決を見ていない。ケネディ暗殺がそうであるように、政治的暗殺の複雑な様相がここにも見られる。

映画は当時のこうしたこみ入った背景から、その動機をひとつに絞って、その実行と背後勢力の絡みを推測して見せたものだ。

それによると、バルメ首相を抹殺したのはある国際勢力が慎重な準備を経て行ったということになっている。当時は、ソ連の核政策に対抗して、西側はスウェーデンに核装備を激しく迫っていた。しかし平和主義者のバルメはそれに対抗して、ガンとして首をタテに振らなかった。それに業を煮やした勢力が、プロのテロリストを雇い、その目的を果たしたというものである。それには国内の諸勢力、政治家、治安関係も加担していたという大胆な設定になっている。

しかしながら、映画は、サスペンス・アクションの常道をとって、十分に楽しめるものとなっている。

フレデリック・フォーサイスの有名な小説「ジャッカルの日」を彷彿とさせる導入部で、イギリスからある殺し屋が自分を隠し、ストックホルムに潜入する。ギャラは200万ドルという高額なものである。拠点を定めたその男は直ちに協力者づくりに奔走する。情報提供者、元傭兵の射撃手etc.。それに気づいた市警の若い刑事が秘かに追跡に入る。テロリストの行動、それを追う刑事の描写。まるでスウェーデンの人気刑事もののシリーズ、マルチン・ベックを思わせる雰囲気。映画は進行する……。

監督はスウェーデン人のシェル・スンズヴァル。テレビ、劇場映画で活躍する中堅の45才。出演者たちは国際豊かでイギリス、ノルウェー、南アフリカ等々の俳優たちが競う。

## 戦後の主な暗殺事件

- 1961 ■ 社会党書記長 浅沼稲次郎
- 1963 ■ アメリカ大統領 ジョン・F・ケネディ
- 1968 ■ 大統領候補 ロバート・ケネディ
- 1968 ■ 黒人公民権運動リーダー マルチン・ルーサー・キング
- 1980 ■ 元ビートルズのジョン・レノン
- 1984 ■ インド首相 インディラ・ガンジー
- 1995 ■ イスラエル首相 ラビン

# 99年夏、待望のロードショー!

●特別鑑賞券 ¥1,500 (税込) 絶賛発売中!

伊勢丹本館斜め向かい・マルイザッカ先  
**新宿東映パラス2**

03(3351)3062